

特定非営利活動法人 勇者の会

樋口宗孝がん研究基金 第10次助成 事業報告書

札幌市さぼーとほっと基金の助成金を頂き、「家族の絆プロジェクト」と題し、病気のお子さんを持つご家族をホテルへ招待し一時でも病気を忘れ楽しんで頂くイベントを開催いたしました。

その中で、さぼーとほっと基金からは助成対象外である飲食代にかかわる部分を、樋口宗孝がん研究基金様から助成を頂く事が出来ましたおかげで、今回の事業を行う事が出来ました事を心より感謝申し上げます。

10月22日の一家族目は、息子さんががんになった事で残された姉弟の小学1年生の娘さんが祖父母家族と暮らしお母さんと一年以上離れて生活したご家族でした。もう一家族のお子さんは入退院を何度も繰り返し食べ物の制限がある子でした。

11月12日の二組は入院中一緒の部屋の隣のベッドで治療を受け、励まし合って退院したご家族でした。その内の一人のお子さんは酸素とタンを管で取らないといけない4歳のお子さんでしたので、看護師ボランティアが付き対応させて頂きました。

1月4日の二組の家族の中の一人のお子さんは4回も再発して治療と闘っているご家族でした。家族旅行へは今まで行く事が出来なかったとの事でとても喜んでくださいました。最後の1月21日にご招待したご家族はゲームが大好きな男の子の兄弟でした。このご家族には小学生、中学生の男の子ボランティアスタッフをお願いし、釣り遊びやカードゲームで楽しんで頂きました。

このプロジェクトの中で楽しんで頂いた体験といたしましては、海に行こうというテーマをもとに家族皆でお菓子リュックづくりに挑戦をし、そのリュックを背負い海に向かい、プロジェクションマッピングで出来た海の映像の中でお魚釣りゲームをし、そこで得た景品をリュックに入れ、3部屋にわたる宝探しゲーム・クワガタ取り体験、夕食は流しそうめん&オードブルをゆっくり食べて頂きながら、第一学院高等学校神戸キャンパスのボランティア部の生徒さんが、神戸に家族旅行へ行った気分になれるよう演技をして動画を作成したものをご家族に鑑賞して頂きました。その動画では、日本で一つしかないパンダとコアラが両方いる王子動物園や観光スポットを生徒さんが案内し、その中で買ったお土産をモニターから「あなたの分よ～」と渡してくれ、実際に同じ物を準備しておき、ご家族の後ろからプレゼントを渡すといったサプライズを行い大変喜んで頂きました。

このような体験をお子さんの状況や家族構成に合わせて行いました。病気のお子さんがいらっしゃるご家族においては旅行へ行く事が難しい中で、ホテルへの宿泊、その中でも様々な体験をして頂き一時でも治療の痛みや辛さを忘れ、楽しんで頂けたのであれば幸いです。

事前に旅行希望日や到着時間を第3希望まで聞き、他にも好きな遊び・キャラクター・食べ物・飲み物・今欲しい物など事前に伺い、ご家族の予定に合わせて招待家族毎に寄り添った内容やスケジュールを考え、楽しんで頂いた”家族の絆プロジェクト”でした。

今回の活動を10月22日には北海道新聞にて記事が掲載、2月15日の国際小児がんデーの日にはHBC [今日ドキッ!]にて勇者の会の”家族の絆プロジェクト”の特集が報道されました。今回小児がん患者7家族と共に一泊二日を過ごさせて頂き、後日イベント中に撮影した家族写真アルバムを送らせて頂き、その後の感想で、この様なお言葉を頂きました。

『文書にするのも難しいくらい感謝、感動でいっぱいです！色々考えていてもなかなか行動にうつすことはできていなかったので参加することができて本当によかったです。人見知り場所見知りなどで慣れるまで時間はかかったけれどそれもまた本人にはいい経験だったのかなと思いました。子供だけじゃなく親までずっと楽しませてもらえるなんて他では絶対に味わうことができないなとおもいました！なんなら親の方がはしゃいでました（笑）みんなで頑張って乗り越えてきたご褒美だなんて改めて思いました！！

病院での話もただ大変だったねとかではなく細かいところまでみんなで話したり、勇者の会の集まりだからこそできることだなと思いました。

今回は素晴らしい体験をさせていただき本当にありがとうございました！！』

この様な嬉しいお言葉を頂き、これからも全力でサポートを続けさせて頂きたいと思いました。今後もこの様なサポートが続けられましたら、北海道の小児がんの子どもがいるご家族が一時でも痛みと不安を忘れ楽しむ事が出来、また明日からのパワーに変えて治療に向き合う事が出来るのではないかと思えるサポートでした。